



株式会社レゾナック・セラミックス

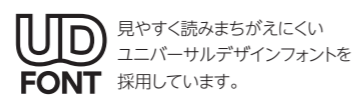
本レポートの内容に関する
お問い合わせは以下へお願いします。

富山工場 CSR 部
〒931-8577
富山県富山市西宮町 3-1
TEL : 076-437-9201
FAX : 076-437-6600

ホームページは
こちらから



<https://www.rce.resonac.com>



2023年6月発行

経営理念

パーパス／存在意義

化学の力で 社会を変える

先端材料パートナーとして時代が求める機能を創出し、
グローバル社会の持続可能な発展に貢献する

バリュー／私たちが大切にしている価値観

プロフェッショナル としての成果へのこだわり

仕事に情熱と誇りを持つ
実力主義、成果にこだわる
結果、グローバルで認められる
一流としての実力を持つ

機敏さと柔軟性

挑戦を称賛し失敗に寛容になる
思考と行動に柔軟性とスピードを持つ
結果、組織としての基本速度をあげる

枠を超える オープンマインド

互いへの信頼と尊重を示す
オープンに、領域を定めず関わりあう
結果、内外のステークホルダーとの
共創を実現する

未来への先見性と 高い倫理観

化学と真摯に向き合う
数世代先の未来を見通す先見性を持つ
化学技術への自律した倫理観と
全てのステークホルダーに
対する誠実さを持つ

CONTENTS 目次

- 01 経営理念
- 03 トップメッセージ・会社概要・沿革・編集方針
- 05 サステナビリティビジョン2030

- 07 快適な暮らしを支える「素材」
- 09 特集 **チェンジ&チャレンジ
レゾナック**

- 13 組織統治
- 15 人権
- 17 労働慣行
- 21 公正な事業慣行・消費者課題

- 23 環境
- 25 環境データ
- 27 コミュニティへの参画およびコミュニティの発展
- 29 2023年CSR行動計画・未来への取り組み

トップメッセージ

化学の力で社会課題を解決、 共創を通じて持続的社會に貢献する レゾナック・セラミックス



2023年1月、昭和電工株式会社と昭和電工マテリアルズ株式会社が統合し、統合新会社「レゾナック」として新たなスタートを切りました。これにともない、私たちは2014年の創立以来の社名である「昭和電工セラミックス株式会社」から「株式会社レゾナック・セラミックス」に会社名を変更しました。

レゾナックグループは「化学の力で社会を変える」を存在意義（パーパス）として、社員が大切にすべき4つのバリュー（価値観）に、「プロフェッショナルとしての成果へのこだわり」「機敏さと柔軟性」「枠を超えるオープンマインド」「未来への先見性と高い倫理観」を定め、これらをパーパスと合わせて経営理念としました。レゾナックグループの一員として、私たちはこの経営理念の下で事業活動を通じた社会課題の解決に取り組んでいきます。

社長としての私の使命は、レゾナックグループの経営理念のもと、「社会課題を解決するお客様に期待を超える一流のセラミックス製品・サービスを提供する」姿を目指すことにより、企業価値を持続的に高めていくことです。この目指す姿

の実現には、私たち独自の取り組みだけでなく、業種・業界の枠を超えた様々なステークホルダーとの協調や連携が欠かせません。私は、目指す姿に対する社員の熱意と4つのバリューの実践が、レゾナックグループのパーパスに共感いただける多様なステークホルダーの皆さまとの共創と強く結びつくことにより、持続的社會の実現に向けた私たちの貢献度が高まる好循環が実現すると考えています。

安全・安定操業実現のためには凡事徹底を掲げ、挟まれ／巻き込まれに特化して抽出したリスクの全てを低減することで3年連続の休業災害ゼロを達成しました。今後は、従業員の安全に関する意識調査結果を踏まえ対話の機会を増やし、新たなアイデアや価値を生み出します。

レゾナック・セラミックスは、お客様、社員、地域社会、パートナー、すべてのステークホルダーの皆さまとの共創を通じて、レゾナックグループが目指す「共創型化学会社」を体現してまいります。

ご指導、ご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

代表取締役社長 飯塚 誠

サステナビリティレポートの報告対象範囲

株式会社レゾナック・セラミックス 塩尻工場・富山工場・横浜工場を対象としています。2022年の1月～12月の情報に2023年の情報を付け加えています。環境データの一部は2022年4月～2023年3月のものです。

編集方針

本レポートは、社会的責任に関する国際的な規格であるISO26000に沿って構成され、お客様、地域社会、取引先、従業員の皆様と私どもを結び、コミュニケーションを深めていただく事を目的に作成いたしました。本冊子を手にとった方に、素材メーカーである当社がどのように社会とつながっているか、サステナビリティ活動の取り組み事例を挙げながら出来る限りわかりやすく報告するように努めています。本レポートをお読みいただき、興味を持っていただけたら工場へぜひ足をお運びください。皆様との交流を深めながら、サステナビリティ活動に関する意見や情報交換する機会を持てたらと願っております。

会社概要

■株式会社レゾナック・セラミックス
(株式会社レゾナックの100%子会社)
○社長／飯塚 誠
○設立／1985年11月
○資本金／460百万円
○従業員／362人(2023年1月1日現在)
○事業内容／研削材、耐火材、超高压製品、
フィルター材、酸化チタン、
ガラス用鏡面研磨材の製造

○拠点

□本社・塩尻工場
所在地／長野県塩尻市大字宗賀1
敷地面積／300,000㎡
従業員数／159名(2023年1月1日現在)
□富山工場
所在地／富山県富山市西宮町3-1
敷地面積／210,000㎡
従業員数／142名(2023年1月1日現在)
□横浜工場
所在地／神奈川県横浜市神奈川区恵比須町8
敷地面積／約140,000㎡
従業員数／61名(2023年1月1日現在)

■株式会社レゾナック

○社長／高橋 秀仁
○設立／1939年6月
○資本金／182,146百万円(2022年12月31日現在)
○従業員／連結25,803人(2022年12月31日現在)
○本社所在地／東京都港区芝大門1-13-9
○事業内容／エレクトロニクス、モビリティ、機能材料、
石油化学、基礎化学品、グラファイト、
デバイスソリューション、ライフサイエンス

沿革

1933年10月 日満アルミニウム株式会社としてアルミニウムの製造を開始
1943年10月 日満アルミニウム株式会社を昭和電工株式会社に吸収合併し昭和電工株式会社富山工場となる
1946年10月 カーバイド、石灰窒素肥料の製造を開始
1959年 4月 高炭素フェロクロムの製造を開始
1969年 8月 高炭素フェロニッケルの製造を開始
1983年 1月 熔融シリカの製造を開始
1983年11月 スポンジチタンの製造を開始
1987年 1月 球状アルミナの製造を開始
1988年 7月 高純度酸化チタンの製造を開始
1994年 3月 空気分離装置の受託製造を開始
2003年 5月 ISO14001認証取得
2011年 7月 OHSAS18001認証取得
2014年 1月 昭和タイタニウム株式会社から昭和電工セラミックス株式会社に商号を変更
本社 塩尻へ移転
塩尻工場設立
2014年10月 東北金属化学株式会社吸収合併によるショウロックスの製造を開始
2015年10月 横浜工場設立
2021年 7月 CMPスラリーの製造を開始
2023年 1月 昭和電工セラミックス株式会社から株式会社レゾナック・セラミックスに商号を変更

サステナビリティビジョン2030

当社はレゾナックグループが掲げるサステナビリティビジョン2030のもと、従業員一人ひとりがサステナビリティ活動を進めています。

特に工場の近隣地区の皆様や近隣企業との相互理解を深めるため、工場見学会の開催、意見交換、情報交換、地域行事への参加など積極的な取り組みを通して皆様と交流を図り、社会、地域の持続的発展に貢献していきます。

豊かな自然環境との相応が求められる地に拠点を構え、事業の展開を図っています。



塩尻工場

塩尻工場は、四季折々の姿を見せる日本アルプスを臨み、日本海に注ぐ千曲川の源流の地にあります。

富山工場

富山工場は、豊かな海の幸に恵まれた富山湾に面し、後ろに立山連峰を臨む富山平野にあります。

横浜工場

横浜工場は、東京湾を含む自然環境と、機能性に優れたビジネス空間が共存する環境未来都市にあります。

サステナビリティビジョン2030

社会課題解決による企業成長

技術や事業を通じて社会の課題を解決し、社会に価値提供をすることで、自らの持続的な成長と企業価値の向上を実現していく

世界で仲間をつくる会社

顧客、従業員、投資家およびステークホルダーなどの将来世代を含む持続可能なよりよい社会づくりのパートナーから、「選ばれ」かつパートナーに「選ぶ」ことができる共創型化学会社になる

社会との「和」を大切にする。



快適な暮らしを支える「素材」

当社製品の多くは、様々な製品の素材・部材として使われています。
直接皆様の目に触れる機会の少ないものですが、社会の発展、
皆様の暮らし・生活を便利にするために欠かせない役割を担っています。
また、私たちはSDGsがめざす持続可能な社会の実現に向け、
製品・技術・サービスを提供しています。

SDGs (持続可能な開発目標) 達成への取り組み

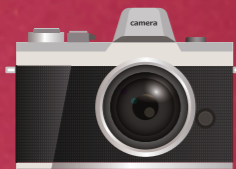
2015年9月に開催された「国連持続可能な開発サミット」で150を超える加盟国首脳に参加のもと、その成果として「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択されました。このアジェンダで2030年までに達成すべき目標として掲げられたのが、17のゴールと169のターゲットからなる「持続可能な開発目標 (SDGs)」です。
SDGsは官民共通の目標として課題解決を求められていることが特徴です。レゾナック・セラミックスは、事業を通じて持続可能な社会の実現に貢献していきます。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



SHOROX®

酸化セリウムを主原料とした鏡面研磨材です。液晶パネルや光学ガラス、ガラスハードディスクなど高精度な仕上げ面が要求される工程で使用されています。



こんなところに使われています

- カメラやセンサーなどの光学レンズの最終研磨



ショウビーエヌ® UHP

高い熱伝導性、化学的安定性を兼ね備えたユニークな材料として、潤滑・離型材、各種セラミックス原料、放熱フィラーなど、様々な分野で使用されています。



こんなところに使われています

- 高出力の電源制御の放熱部材



丸み状アルミナ ASシリーズ

結晶の角が少ない単粒状のコランダムです。粒子径が大きく、ブロードな粒度分布を有するため樹脂への充填性に優れ、粘度が低く流動性に優れたコンパウンドを得ることができます。



こんなところに使われています

- 放熱性の良さを活かし放熱シートなどに使用



低ソーダアルミナ ALシリーズ

当社独自の技術によりソーダ含有量を低減させたαアルミナです。α結晶の大きさ、形状、分布などを調整した各種ラインナップを揃えており、特に微粒アルミナは樹脂中の微粒成分として、粗粒成分と組み合わせて使用されています。



こんなところに使われています

- 一般放熱材料



SBN K-TIP® (エスビーエヌKチップ)

自動車部品をはじめとする鉄系材料の研削・切削加工用素材として広く利用されている他、難研削材の加工にも使用されています。



こんなところに使われています

- 自動車部品の研削用の刃先



アルナビーズ® CB

丸みを帯びた結晶で粒度分布の広さから高い充填性能を有し、高純度で電気特性・耐湿性にも優れているため、放熱材やフィラー／増量材・特殊プラスト材として広く使用されています。



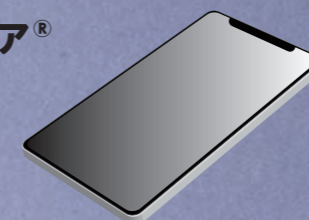
こんなところに使われています

- 熱伝導性充填剤
- 合成樹脂・ゴムへの充填剤
- フィラー・プラスト材



スーパータイタニア® (酸化チタン)

超微粒でありながら分散に優れた高純度酸化チタンです。通信の高速化、および自動車の電動化などに伴う電子部品の小型・高機能化を素材から支えています。



こんなところに使われています

- 積層セラミックコンデンサ
- 触媒担体
- 樹脂添加材



ホワイトモランダム® WA

自動車や産業機械に使用される部品、部材などの研削・研磨のための研削砥石、切断砥石、研磨布紙 (ベルト) などに使用されています。



こんなところに使われています

- 精密研削砥石
- 研磨布紙用
- 耐火用煉瓦



特集

Change & Challenge

チェンジ&チャレンジ
レゾナックレゾナック・セラミックスの4つのバリューについて当社社員へ
考え方、意気込み、未来への活かし方などを聞きました。

三工場長から

01

プロフェッショナル
としての成果へのこだわりChange &
Challenge塩尻工場長
宮澤 宏和富山工場長
小口 孝浩横浜工場長
佐藤 太郎一人ひとりが情熱を傾け、誇りを持ち
品質の向上と安定化を目指す

未来を技術力で切り拓く

塩尻工場長 宮澤 宏和

私の考える「プロフェッショナルとしての成果へのこだわり」は以下3つです。

- ありたい姿を思い描き、達成に向けてやり方・手順を考え、執念を持ってやり遂げよう。
- こうありたいという強い想いのないところに成果はない。強い思いを持つ。
- 自身のスキルをあげて社会課題に貢献しよう。

1人1人が仕事をしていくうえで必要な考え方と捉え、行動することで持続可能なグローバル工場を作り上げていきたいと思います。

品質の安定と無駄を排除

横浜工場長 佐藤 太郎

横浜工場では創立以来、アルミナを製造しております。元々はアルミニウム精錬用のアルミナを製造していました

が、オイルショックを契機に全量がケミカル用途へ、そして現在では主に放熱用フィラー向けに用途が変わってきています。お客様がご所望する品質を造り込み、競争に勝つためにもコストを意識し、品質安定化、安価な原料の使いこなし、各種の原単位向上や無駄の排除といった諸活動を行っていくことが大切だと考えています。

品質で留意している大切なこと

富山工場長 小口 孝浩

我々の事業戦略、事業活動の成果が品質として表れます。富山工場製品の主原料は他社に依存、特に酸化チタンはコンペチターから購入しており、製造コストは他社に比ハインドな事業構造となっています。コンペチターとの差別化は必須で、顧客要求品質を高いレベルで安定化することが他社参入障壁を高めます。お客様から高い信頼を得るために、工場のショールーム化の推進、クレーム発生時は2日以内に応急処置と顧客説明完了を徹底しています。

横浜工場から

02

機敏さと
柔軟性

Flexible!

設備の保全や情報の共有化など
ハードとソフト両側から
スピーディに改善を行う

ご安全に!

Change &
Challenge

情報提供も品質のひとつに

顧客ニーズとして、製品に関する情報の提供があります。日頃からお客様の要求に対してスピードを持って、適切な対応することを心掛けています。クレームに関する情報、製品に含まれる化学物質の情報、製品の国内外法規制に関する情報、製品の廃棄方法に関する情報と多岐にわたるため柔軟に対応することが必要です。これら情報も製品品質です。お客様に信頼されご満足いただける質の高いサービスを提供し、顧客満足度の向上につなげます。

設備の維持に最新の注意を

設備の異常や「いつもと違う」という状況を発見した場合、焦らず、無理せずひと呼吸おいて対処するようにしています。処置方法に迷いが生じた場合は決して遠慮せず、上長や他の課員に報告・連絡・相談をして安全かつ最善の方法で対処できるように心がけています。

設備故障で修理が必要と思われる場合は運転上の原因が無いかを確認し、繰り返し故障が起きないように工場の保全担当者や情報的的確に共有し、改善を加えた修理方法を検討します。

相互分析とコミュニケーションで成長

分析業務での留意点として、安全第一を意識して効率よく業務を行うためにどうすれば良いのか、常に考えながら従来の作業手順を見直す視点を心掛けています。ルーチン分析ではない特別分析に関しては、測定条件などの情報を記録することで、同じように分析ができたり、すぐに分析ができる様に普段から各個人で他のチーム員と共有化しています。セラワンチームとして、富山・塩尻・横浜での分析業務で学んだ知識や経験を共有したいと考えます。

Change & Challenge

チェンジ&チャレンジ レゾナック

塩尻工場から

03 枠を超える オープンマインド

Change & Challenge



お互いを信頼・尊重することを大切に
社内外と協力し、共に創っていく

枠を超えるオープンマインド ～DIDX部編～

DIDX部は会社組織を超え、多くの外部ベンダーと一緒に様々な業務課題を解決するために情報編集力、ビジュアル力、設計力を持って作業を進めています。メンバーで解決できないことでも、外部ベンダーに依頼し解決策を提案、開発してもらうことも可能です。スピード感をもって進めていますので、漠然とした内容でも、DIDX部に相談してください。

DIDX部の最終目標は「総合監視」

総合監視ができる従業員と安全安心という部分で、従業員の情報や作業機器の情報、危険源への立入禁止措置や危険体感システムを教育というよ

うなことに活用することができます。もちろん、入退場管理や監視カメラを用いたセキュリティ管理もできますし、情報の見える化、設備管理やデータ収集を活用し設備保全のデジタル化もさらに進みます。



富山工場から

04

未来への先見性と
高い倫理観



Change & Challenge



数十年先に求められる
価値のある製品の開発と
人として成長を

長期的な計画でリスクを回避

安全かつ計画的な保全の実行こそが役割です。長期的な計画の見通しを立てて保全計画の策定を行うことで、事前準備段階で最大限に災害や設備停止リスクを回避します。仮に工事中に問題が発生した場合にも全体の見通しが立っているため、安全に配慮しつつ迅速に対応することができます。また、その計画に基づいた保全を確実に行うことで設備の健全な状態を維持管理し、突発的な設備停止を未然に防止します。これらを安全第一で実行します。

倫理リスクを見据える慧眼を

昨年4月に入社し、入構時のコンプライアンス教育を担当するようになりましたが、行動規範を読むだけでも毎度ハッとすることがあります。内部通報制度で自浄作用の向上が図られているように、人権尊重のPDCAを「仕組み」と

して取り入れることが重要だと思います。

国際的な関連法や実務事例を知識として身に付け、自らの行動・判断の糧とし、身近なリスクから見据える視力を高め、総務として定期的な人権教育や啓蒙の機会を提供して行きたいです。

未来を技術力で切り拓く

技術グループでは、セラミックス材料の持つ力を信じて、様々な社会課題に挑戦しています。セラミックスは最先端の電子・情報機器を支える材料です。数十年先の未来まで社会に求められる価値を提供し続けるために、お客様との共創にこだわり、DXやAI技術など新たな技術も駆使しながら新規材料開発、品質改善、プロセス合理化といった業務を推進しています。今後は性能やコストだけでなく、原材料や製造プロセスも含めたサステナビリティが求められる「未来に誇れる技術」を意識した技術開発を進めます。

組織統治



法令を遵守することはもとより、高い倫理観を持って行動します。

- 担当業務に関する法令・協定・会社の規程・規則や正しい手続きの仕方およびそれらの変化を理解し、遵守します。
- 国内外の法令を遵守し、世界人権宣言や様々な国連条約を尊重し行動します。
- ルール化されていないことであっても、誠実な言動を心がけ、社会の一員としてステークホルダーから信頼されるよう行動します。

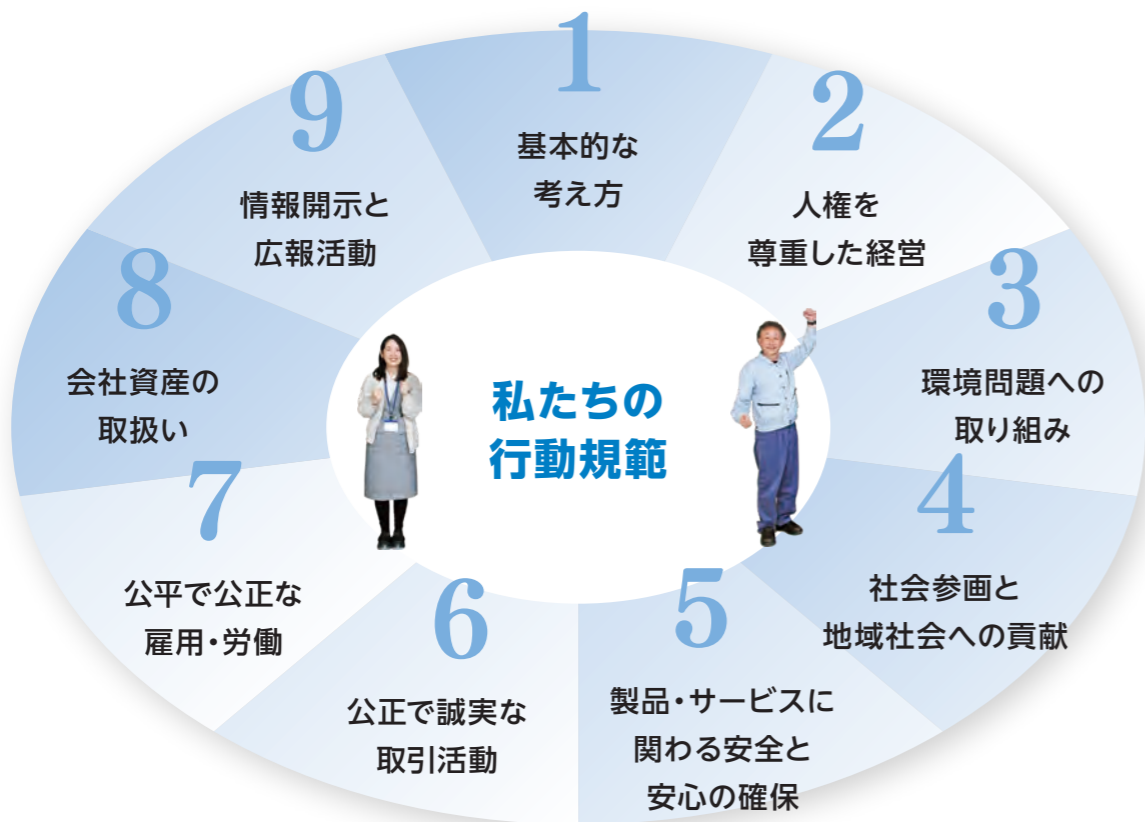
私たちの行動規範／コンプライアンス

レゾナックグループの考えるサステナビリティとは、「事業活動を通じたSDGs課題解決への貢献と、私たちの行動規範に基づく全社員の行動によりすべてのステークホルダーにご満足いただける社会貢献企業を目指すこと」です。

当社では、私たちの行動規範に掲げる9項目に則り、

私たち一人ひとりがステークホルダーに対して何をすべきかを考え、行動しなければならないことを挙げて、各部署でディスカッションを行っています。

レゾナックグループの一員としての責任を果たし、国際社会の持続的発展に貢献していきます。



取締役会

取締役会では、当社の基本方針を決定するとともに会社および定款で定められた事項および重要な業務執行案件について、審議を経たうえで決定し、経営の意思決定機能の迅速化と活性化を図っています。当社では、計画的に取締役会、定時株主総会、監査役監査を実施しています。

2022年実績

取締役会／年8回(書面決議含む)

定時・臨時株主総会／年3回(書面決議含む)

遵守評価

法規制に則った適正な現場管理と運用状況を確認するために生産活動に関わる環境・安全・化学物質管理・設備保全の法規制項目を数百の設問からなるリストを活用して評価を行っています。

この取り組みは遵守状況の確認だけでなく、施行が見込まれる法規制への計画的対策や、これに関連した教育や社内体系、社内規程の整備を行うだけでなく、新たな気づきの場としても重要な役割を果たしています。

近年は、化学物質に関する規制や作業保護の安全対策基準が厳しくなり企業に課せられる責任も益々大きくなってきていますが、このリストを活用することで漏れの無い法令遵守を推進しています。

項目	確認項目	法規制号	法令変更	評年度
1. 業種別安全衛生管理体制	① 安全委員会及び衛生委員会(又は安全衛生委員会)が設置されているか。また、選任された記録はあるか。委員会は毎月開催しているか。 ② 設置基準: 常時雇用する労働者50名以上は衛生委員会、化学工業、金属製品製造等で常時雇用する労働者50名以上は安全委員会。両委員会の設置に代えて安全衛生委員会の設置可。	安衛法8、9条		安全衛生委員会設置している。プロセスも毎月行っている。議事録を作成し
	③ 安全委員会及び衛生委員会(又は安全衛生委員会)の付議事項の追加(安全衛生方針の表明、リスクアセスメントの結果に基づく、近距離搬送、健康診断結果やそれに基づく措置安全衛生に関するPDCA、長時間労働による健康障害防止対策、メンタルヘルス保持増進等)への対応はできているか。 ④ 安全委員会等の設置・議事録等を	安衛則21~23条		議事録は添付し、共有DB上(時間外)で閲覧できる。
	⑤ 各委員会の構成(各職管理職、従業員、労働者等)、付議事項(規定、教育計画、危険有害対策、作業環境測定結果、健康診断結果等)、開催頻度(月1回以上)は適正か	法17、18、19条		月1回開催、全員参加。

チェックリスト資料

監査役監査

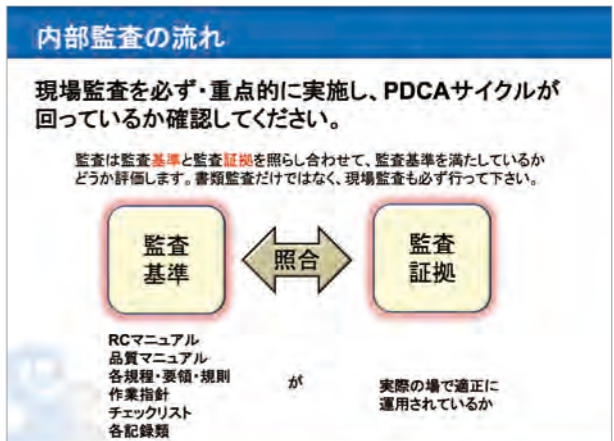
レゾナックグループ監査役による監査を毎年実施しています。工場概況、生産概況、技術・開発課題の進捗等、現地実査を通じて、経営の健全性確保のための提言、助言、指導を受けています。また当社監査役による監査では、監査役が取締役会その他重要な会議に参加し職務の執行状況を確認したり、重要な決裁書類や業務及び財産の状況を現地に調査しています。

- 塩尻工場 ●2022年9月実施
- 富山工場 ●2022年4月実施
- 横浜工場 ●2022年6月実施

内部監査

2015年、当社発足を機に、監査員の技能向上と他工場の生産品や業務を学び自職場に生かすことを目的に、3工場で共通テーマにより内部監査を実施し、情報の共有とシナジー効果による活動の促進を行っています。

年度ごと事前に、監査事務局が各工場で抱える課題や問題点を持ち寄って協議し、その中からテーマを選定します。同じ視点から様々な監査員による監査を実施することで特徴ある取り組みや考え方、そして新たな課題を発見する機会として活用されています。第三者機関による外部監査と異なり、監査員に任命された面々が自由な視点で専門業務とは異なる部門の監査を行うことで、品質・環境・安全の取り組みへの理解が一層深まると共に、部署間の相互理解によるコミュニケーションの活性化にも一役買っています。毎年対象となる部門と監査員をローテーションすることにより多くの学びと交流の場を提供しています。



内部監査資料

人権



人権を尊重し、個性の尊重、
自由な発想、建設的な議論により、
新たな価値を創造します。

- 一人ひとりが社内外で差別行為をしないことに加え、国際社会に存在する民族差別、階級差別、児童労働、強制労働、貧困問題などの人権問題の解決に向けて、サプライチェーンに働きかけるなど、人権尊重に積極的に取り組みます。
- 多様な人材が互いにその個性を尊重し、前例にとらわれず自由に発想し、建設的に議論することで、新たな価値を生む風土を目指します。

人権教育

レゾナックグループは、誰一人取り残されることなく、すべての人の尊厳が確保され、誰もが等しく尊重される社会の実現のために、事業を展開するあらゆる国や地域において、事業活動の根幹として人権を尊重します。昨今では、ジェンダー平等や差別・不平等といった人権について考える機会が増えてきました。巷にあふれる様々な情報や意見、個々の権利をどのよ

うに解釈し、対応策や妥協点を見いだしたら良いのか、ショートケースを用いて解決の糸口を学ぶ機会を設けています。身近で起こりうるケースを題材に、職場単位でディスカッションを行い、様々な意見や考え方を学ぶことによりコミュニケーションの重要性を再認識すると共に人権への理解を深め、自発的な行動を促すきっかけとしています。

5S活動への取り組み

働きやすい安全な職場環境づくりを目指し、職場ごと5S活動(整理、整頓、清掃、清潔、しつけ)に取り組んでいます。工場トップが率先して定期パトロールを実施しているほか、職場ごとに選任された委員を先頭に、目標・目的を明確にして自発的な取り組みを促しています。

改善提案制度・ヒヤリハット

安全衛生・環境保全・品質向上という3つの視点からみた気付きや改善のアイデアを全従業員が毎月用紙にまとめて提出し、これを部署間の垣根を越えて場内で共有しています。提案は、危険度の高い作業や場所の指摘、ムダな業務の改善や工程を工夫してコストを削減するなど幅広い分野に及び、優秀な提案へは年間表彰制度もあります。

労働組合との対話

会社労制担当者と組合代表者間で毎月事務連絡と意見交換の場を持ち、課題や情報の共有を進めています。会社視点では気づきにくい現場の率直な意見を伝える場として、更には災害の未然防止や各種取り組みへの双方の考え方を見直しスムーズな組織運営にも一役買っています。このほかに経営陣と組合代表者間で定期開催される事業所経営に特化した協議では、生産概況や市況分析から始まり、待遇改善、経営施策や安全管理、健康経営、福利厚生と広範囲にわたる議題を扱い課題の解決に努めています。



組合研修会の様子

経営理念	トップメッセージ 会社概要・沿革・編集方針	サステナビリティ ビジョン2030	快適な暮らしを支える「素材」	特集	ISO26000の 中核課題	2023年 CSR行動計画	未来への 取り組み
組織統治	人権	労働慣行	公正な事業慣行・ 消費者課題	環境	コミュニティへの参画および コミュニティの発展		

安全の取り組み

■ 場内安全パトロール

様々な視点から場内の危険源をくまなく抽出するために、管理者パトロールや労使合同パトロール、テーマを限定した臨時パトロールや外部コンサルを招聘してのパトロールなど多種多様な視点でのパトロールを定期実施し、災害発生の未然防止に取り組んでいます。パトロールでの気付きは、直接担当者へ伝え改善を指導するとともに、データベースに挙げ広く情報を共有することで自職場での振り返りの機会を提供しています。

■ 安全教育

新規入構者向けの構内ルール教育を皮切りに、業務内容や経験年数に応じて外部講習と並行して粉じん教育や保護具の着用教育を場内で実施しています。年初めには一年の無事故無災害を祈念した安全祈願祭の他、場内協力企業の作業員全員を対象に安全大会を開催します。大会は工場長挨拶に始まり、年度目標の説明や安全講義の後、参加者全員の安全唱和で締めくくります。



富山工場 安全教育

■ 危険体感教育

あつてはならない労働災害を疑似体験して、安全の尊さを学ぶ体感型教育を実施しています。体験設備にはVRを用いたものや、作業者の手に見立てたダミー手袋の巻き込まれ、濡れた手で微弱電流に触れる感電体験など各工場特有の作業リスクを想定しています。安全はすべてに優先するといわれますが、新人ベテラン問わず改めて自職場の危険源への気付きや不安全行為を顧みる機会に活用しています。

■ 安全性審査

新設案件や増設・改造・解体工事、更にはこれに伴う新たな作業や作業変更の申請を受けて、設計段階や試運転前のタイミングに関係者を集め設備や作業の安全性を審査します。また、これらの活動が環境や品質に及ぼす影響の評価を行い、課題を明確にし適切な対応を取ることで安全な職場環境を維持しています。

■ フォークリフト安全教育

場内の横持運搬には欠かせないフォークリフトですが、業務に追われ安全への配慮が疎かになりがちです。場内ルールの再確認と一人ひとりの安全意識高揚のため、外部講師に指導を仰ぎながら、倉庫内に設けた特設コースで実地訓練を行っています。全ての運転者に参加を義務付け、訓練結果は点数化し合否判定を行うので受講者の取り組みにも自然と力が入ります。



富山工場 フォークリフト安全教育

■ 熱中症教育

STOP!熱中症 クールワークキャンペーンに協賛し毎年4月の準備月間を経て、5月～9月の5か月間、啓蒙ビデオや健康管理チェックシートを用いた熱中症予防の取り組みを行っています。睡眠や食事に関するチェック項目に回答することで簡単に自身の体調を判断することができ、体調管理に役立っています。また、本格的な暑さを迎える前の梅雨時期からは熱中症注意喚起の一斉放送を行い、特に暑さの厳しい午後からはこまめな水分補給や休息を適宜と呼び掛かっています。

労働慣行

社員一人ひとりの労働意欲を高め、誰もが働きやすい職場づくりを推進します。

●人材育成方針を明確にして社員の能力を開発し、働きがいを育てる職場環境を整備します。

●社員が安心して働けるよう、安全かつ健康に配慮した職場環境を構築するための取り組みを徹底します。

人材育成の取り組み

当社では、求める人材像を明確にし教育体系を順次見直しています。以下の施策により、能力開発に意欲的な企業風土をつくっています。

- 1 職務に必要な知識を得るための階層別研修の充実
- 2 将来を担う社員の育成を目的とした選抜研修の実施
- 3 知識の幅を広げるための教育資料の定期配信



経営理念	トップメッセージ 会社概要・沿革・編集方針	サステナビリティ ビジョン2030	快適な暮らしを支える「素材」	特集	ISO26000の中核課題	2023年 CSR行動計画	未来への 取り組み
組織統治	人権	労働慣行	公正な事業慣行・ 消費者課題	環境	コミュニティへの参画および コミュニティの発展		

緊急事態への対応

■ 普通救命講習会

外部講師を迎え実際に起きた事例を参考に、被災地への適切な処置方法や緊急処置対応を学ぶ座学のほか、工場内に設置しているAED(自動体外式除細動器)を使った訓練を行っています。

■ 緊急時処置訓練

生産活動の中で起こりうる整備異常や環境異常を各工場・部門ごとに想定して、被害を最小限に抑えるための初期対応訓練を行っています。特に、工場周辺への影響が懸念される水質や大気に関する排水異常や漏洩対策訓練は、自動遮断弁や警報装置など設備対策に加えて、人の手による土嚢投入や目視確認といった抜けの無い訓練を心掛けています。



塩尻工場 排水時異常時訓練

■ 備蓄管理

近年、全国各地で地震や台風・豪雨による自然災害が頻発しており、広範囲にわたり大きな被害が出ています。自然災害はいつどこで発生するのか分からないため、従業員の安全を守るうえでも防災備蓄品の準備は必要不可欠であると考え、保存水や食料、毛布や簡易トイレなどを備えています。また、毎年備蓄品の点検を行い、消費期限が近いものは新しいものと入れ換え、従業員数の変動に応じて適正な分量を確保するようにしています。その他、非常用発電機などの動作確認も行っています。



横浜工場 防災備蓄品

■ 防災訓練

各工場を抱える代表的なリスクや災害発生を想定して、全員参加の防災訓練を実施しています。毎年、防災職場や災害想定内容を変えてシナリオを作成し、構内一斉放送やトランシーバーを用いて緊急体制下の対策班ごとに分かれた訓練を行います。消防自動車や屋外消火栓を用いた除害活動や被災者救出、行政機関への通報訓練、周辺への影響調査など緊迫感のある内容になっています。訓練直後の反省会で上がった指摘は、設備対策や翌年の活動に生かし防災体制の強化を図っています。



富山工場 防災訓練

■ 消防設備点検

万一火災が発生した場合に消防設備が正常に作動するように、工場に設置された消火器や消火栓、自動火災報知設備の点検を年に2回実施しています。

点検は専門知識を持つ業者によって、外観による損傷等の確認や動作確認により機能の点検を行っています。また、3年に1回、消防署に点検結果の報告を行っています。

ステークホルダーの声

防災・減災の大切さを学ぶ日々



横浜工場 環境安全衛生チーム
国沢 政智

日本は地震が多く、これまで何度も甚大な人的被害・建物被害が発生しています。また、最近では温暖化による海面温度の上昇によって台風の大型化や集中豪雨による水害や土砂災害も多発しています。このような大規模自然災害の報道を見ると、自然の力には人間は無力だと感じることもありますが、それ故に自分たちに何ができるかを考えなくてはなりません。防災に関連する業務に携わるようになってからは、改めて防災・減災の大切さを学んでいます。

特に今日においては「減災」の取り組みが注目されています。災害を防ぐことを目的とした「防災」とは異なり、「減災」とは災害が発生することを前提に被害を最小限に抑えることを目的とした取り組みです。まず最優先されるのが「自助=自分の身の安全を確保すること」で、自分が助からなければ大切な人を守ること、誰かと協力して助け合うこともできないからです。横浜工場では避難訓練の際に、指示されるのではなく、自身の置かれた状況によって自分自身で考えて身を守る行動をとる訓練を行っています。

防災・減災の取り組みは、私たち一人ひとりが災害を自分事と捉え、いざと言うときに確かな行動が取れるようになることが重要となりますので、そのことをしっかりと意識して業務にあたりたいです。

労働慣行



経営理念	トップメッセージ 会社概要・沿革・編集方針	サステナビリティ ビジョン2030	快適な暮らしを 支える「素材」	特集	ISO26000の 中核課題	2023年 CSR行動計画	未来への 取り組み
組織統治	人権	労働慣行	公正な事業慣行・ 消費者課題	環境	コミュニティへの参画および コミュニティの発展		

改善活動

SDK-S活動(塩尻工場)

SDK-S活動とは塩尻工場で推進している全員の力を結集し工場目標を達成する活動です。2022年は27テーマ、27名のテーマリーダーを中心に各課・グループの課題の中で重要なテーマについて、メンバーが知恵を出し合い、活発な議論をしながら取り組みを進めました。塩尻工場では、年2回の発表会、年3回の報告会を開催している他、レゾナックグループ内での発表会にも積極的に参加しています。さらに1年間のテーマ活動内容や活動成果について優れた活動を展開したチームの表彰を行い、2022年はSDK-S オブ・ザ・イヤー賞として6チームの関係者が受賞しました。



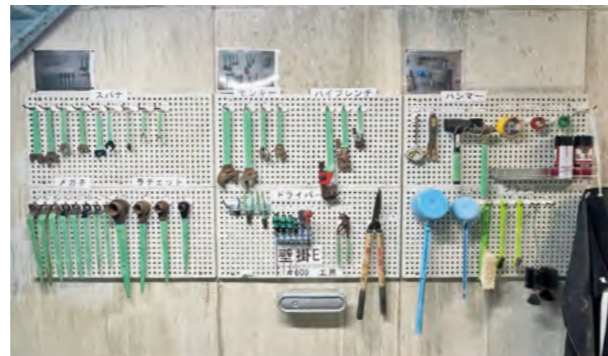
塩尻工場 SDK-S活動報告会の様子

きときと活動(富山工場)

以前より取り組みを進めていた全体的生産革新活動であるTPM活動を刷新し活動を促進させるため、2017年名称を社内公募し富山弁で“新鮮な”を意味する“きときと”を採用、課題意識も新鮮なうちに処置しようとの考えのもと再始動しました。きときと活動は、生産の効率を阻害するあらゆるロス・ムダの徹底的な排除により、災害ゼロ・故障ゼロ・不良ゼロを目指し、生産効率を極限まで高めていくことを目標に、新人・ベテラン問わず一年間かけて課題に取り組みます。

この活動では、製造・開発・設備・品質・スタッフ部門など全ての部門を対象に日常業務の中で感じる“こんな仕組みや取り組みがあつたらいいな”を題材に、工夫を凝らして改善を重ね、その成果を発表しています。発表資料は

活動板に掲示したり作業ノウハウを纏めたワンポイントレッスンシートなどにして技術継承や情報の共有に努めています。



富山工場 工具掛けの改善～分別と定位置管理・紛失防止～

OASIS活動(横浜工場)

横浜工場で行っているOASIS活動は2019年の取り組みが認められ、ダイバーシティCEO表彰で「優秀賞」を獲得しました。各職場で、世代・性別などに関係なくチームを編成し、場内美化、KYトレーニング、座談会等に取り組むことで、工場全体の安全意識が向上し、工場内が綺麗になり、コミュニケーションの活性化につながります。

今後もOASIS活動に継続的に取り組むことで、従業員一人ひとりの意欲向上を図り、自主的な活動を展開していきます。



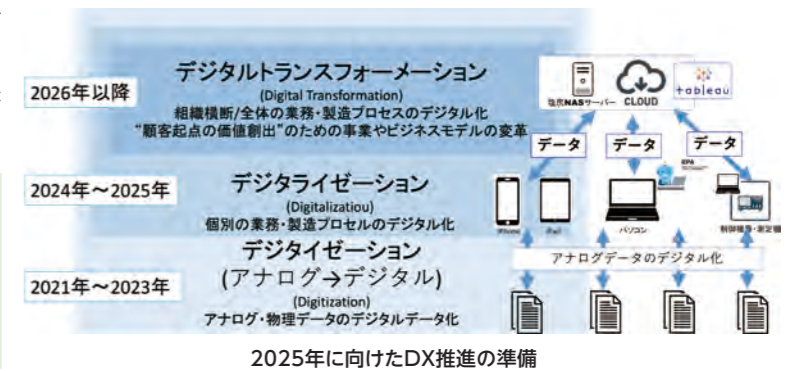
横浜工場 OASIS活動

DIDX推進

当社はデジタル技術で継続的に価値を創出する仕組みを構築し、データ収集、分析、施策決定、実行サイクルの高速化を実現し、顧客価値や業務効率化の向上を図る取り組みを進めています。

2022年実績

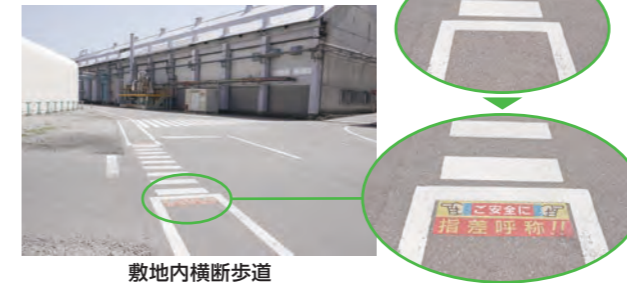
- 富山・横浜工場全従業員へスマートフォン貸与(塩尻工場は2021年導入済)
- 富山工場にてWorkplace導入(ビジネス向けコミュニケーションツール)



安全対策検討プロジェクト

2019年に発生した災害を教訓に、再発防止に向けた取り組みの一環として、工場設備の安全対策推進と技術者育成を目的とするプロジェクトチームを結成しました。リーダーを中心に迅速かつ円滑に計画立案及び提案、進捗管理を遂行できる体制を目指し、「安全対策、生産技術に関するプロジェクト」を発足させ、安全・安定操業基盤の確立に努めています。

また、指差呼称はポカミス防止のため五感を総動員して災害を未然に防止する有効な手段ですが、この活動を改めて浸透させるため場内全ての横断歩道、操作設備、出入口に指差呼称を促す特注の標識やステッカーを貼りました。更には、ベテラン社員が全ての職場を回り過去の経験を織り交ぜた指差呼称徹底のための啓蒙教育を行っています。

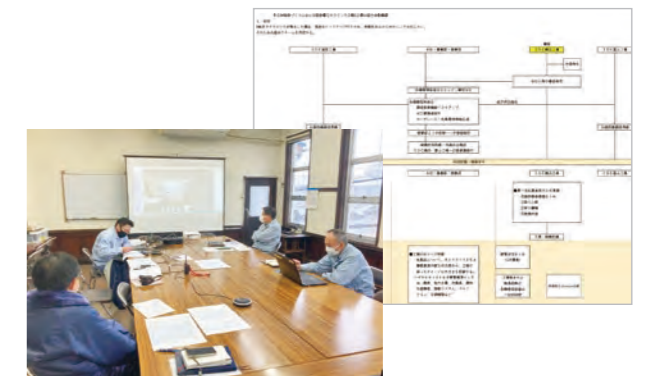


敷地内横断歩道

BCP(事業継続計画)の取り組み

自然災害や発災を起点とした緊急時に備え、企業の社会的責任として、事業を停滞させないための取り組みと仕組みづくりを進めています。ここ数年は異常気象による大雨や大雪、洪水など企業の生産活動にも大きな打撃を与えかねない未曾有の災害が頻発しており、被害想定も都度見直しを余儀なくされています。計画的に設備対策や手順書の見直しを行っています。

また、災害対策本部を中心に工場間で有事を想定し衛星電話やトランシーバーを駆使した情報集約と伝達の合同訓練を行い、対策の精度をより上げると共に、課題の掘り起こしを行っています。



富山工場 BCP取り組みの様子・資料

パンデミックへの備え

行政通達や指導に従い、これまでのパンデミック指針を大幅に見直しレゾナックグループでは本社直轄の一元管理による指導と対策を徹底しています。今年からは、ワクチン接種効果や自主的な予防対策が浸透したこと、更にはシステム化した保険医療体制の充実に伴い行政の感染症対策は大幅に緩和されましたが、社内では今回の爆発的感染下で得られた経験を基に様々なマニュアルや

手順書類が整備され、次の感染症に向けた体制づくりを強化することが出来ました。オンライン会議やテレワーク、手洗い消毒の徹底などこの間に浸透した習慣や働き方も今後は、感染症全般の予防対策や生産性の向上、仕事と生活の調和といった新たな視点で、引き続き活用することとしています。

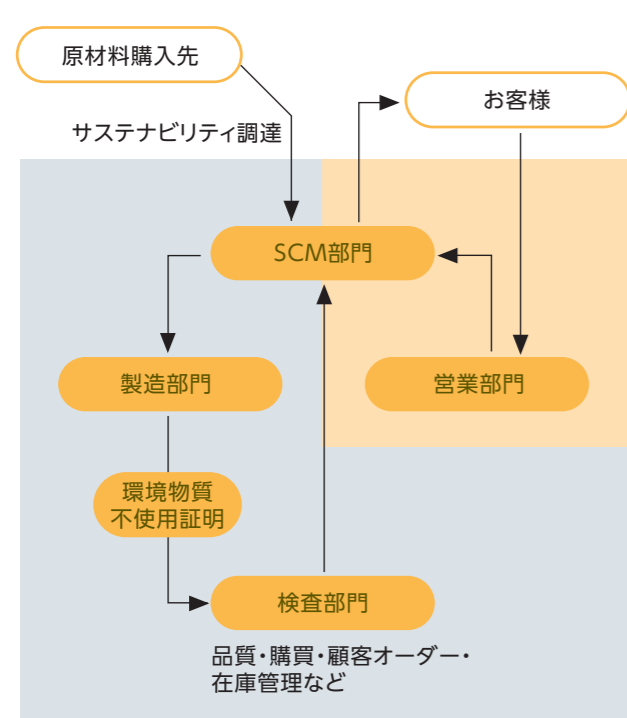
公正な事業慣行

公正かつ自由な競争を基本とした取引を行います。

- 独占禁止法を遵守し、公正な取引を行います。
- 各国の競争法を遵守し、公正な取引を行います。
- カルテルに参加しません。また、それを疑われるような行動をとりません。

サステナビリティ調達

サステナビリティ調達は、「レゾナックグループサステナビリティ調達ガイドライン」をパートナーの皆様と対話を通して共有し、信頼関係をさらに強固なものとすると共に、協働で遵守することで、お互いの企業価値を向上させることを目指すものです。



顧客満足度調査 (CS調査)

当社では年1回、製品の消費者であるお客様(企業)にアンケートを実施し、製品、品質、開発、改良、納期、包装、配送、サービス、価格等に対する満足度を調査しています。



経営理念	トップメッセージ 会社概要・沿革・編集方針	サステナビリティ ビジョン2030	快適な暮らしを支える「素材」	特集	ISO26000の中核課題	2023年 CSR行動計画	未来への 取り組み
組織統治	人権	労働慣行	公正な事業慣行・ 消費者課題	環境	コミュニティへの参画および コミュニティの発展		

消費者課題

ビジネスパートナーと協働して、お客様の期待に答える製品を安定的に供給します。

- 製品・サービス、およびパンフレット・カタログ等にわかりやすく正確な表示をします。
- お客様に当社の製品を推奨・説明する際には、事実を正確に伝えます。
- 購入先を選定する際には、門戸を広く開放し、公平に比較して決定します。
- 発展途上国と取引を行う際は、その経済的自立を阻害することのないよう、適正な価格による継続的な取引を心がけます。

マネジメントシステムの認証

当社では、国際規格のISO9001、ISO14001、ISO45001を取得し、工場内で規定した要領に従い生産活動を行っています。

品質保証体制

当社は、実用性および安全性に配慮した製品・サービスをお客様に提供するため、法令・規制要求事項を満たした製品、さらにはお客様にご満足いただける製品を提供できる仕組みを継続的に改善しています。

顧客満足を得るための品質保証体制	品質保証活動	●方針展開 ●マネージャーボード ●マネージメントレビュー ●内部監査
	一定水準の品質(性能等)の確保	●品質マニュアル ●製品検査項目 ●製品検査方法
	生産効率の向上、コスト削減	●多能化 ●ロス削減 ●収率向上
	新技術の普及	●新製品開発
	多能化の制御(最適化・単純化)	●マニュアル ●自動化
	互換性・インターフェースの整合性の確保	●SAPシステム
	正確な情報伝達(相互理解の促進)	●セールスフォース
	製品の品質を守る	●お客様対応 ●製品リスク評価 ●工程異常報告
	従業員に配慮した規制づくり	●作業環境測定 ●危険度・影響度評価
	環境負荷物質(使用)の管理	●環境物質不使用証明書決裁システム

環境



レスポンシブル・ケアを推進します。



●レスポンシブル・ケアは化学物質を取り扱う企業が自主的に環境・安全・健康に取り組む活動のことです。当社グループのサステナビリティ活動の根幹にはレスポンシブル・ケアがあり、その実践を通じて、社会から信頼・評価される企業を目指します。

「銀色有功章」を受賞

献血や寄付によって赤十字社の活動に一定の貢献をした個人、法人・団体に贈られる「銀色有功章」を富山県赤十字有功会40周年記念大会の席上にて受賞しました。

富山工場では、従業員が家庭から持ち寄ったペットボトルやキャップのほか、生産活動で発生するプラスチックごみの分別を徹底し有価物として売却し、その収益を日本赤十字社富山支部に寄付しています。従業員一人ひとりの行動が、赤十字社の活動を通して、世界各地で多発している自然災害はもとより、現在ウクライナで起きているような紛争の犠牲者への人道支援、そして新型コロナウイルス感染症に対する治療や啓発活動の一助となっています。

ます。「人道・博愛」という赤十字精神の輪がより一層広まることを願い、これからも工場全体で社会貢献を目指していきます。



モノづくりに廃棄物は付き物という考えから脱却して、原料や製品の購入から製造・出荷・製品廃棄までのサイクルを通して廃棄物を出さないための様々な取り組みを進めています。

Reduce [リデュース]

従来であれば理立廃棄物となる、家電製品や複数の素材からなる複合製品を、人の手を介して解体分別することにより、廃棄物ではなく有価物として生まれ変わらせます。

Reuse [リユース]

要らなくなったらずく捨てるのではなく、社内外で新たな活躍の場を求めて再利用の呼びかけを行っています。

Recycle [リサイクル]

リサイクル工程でCO₂排出削減をはじめとした環境負荷を抑える技術をもった委託先を開拓し、その協力を得てより環境にやさしいリサイクルを心掛けています。

ステークホルダーの声



塩尻工場 環境安全衛生チーム
永井 秀範

現地にて施設、車両等を目で見て確認することが重要です。

廃棄物処理法では「自らの責任で廃棄物を適正に処理しなければならない」とされており、委託する廃棄物業者の処理能力、処理が適正に行われているか現地確認が必要です。

当社では毎年、複数ある取引先の中から計画的に廃棄物業者を選定し現地確認を実施しています。現地確認では許可証の確認や処理能力・方法、保管場所、作業者の保護具、教育方法、設備・管理状況共に問題なく適正に処理されているか廃棄物業者担当者立ち合いの元、確認しています。適正に処理されていることを確認することが一番の目的ですが、廃棄物業者がある立地、周辺地域との関係も知ることができると安心して委託することに繋がると考えています。

さらに廃棄物業者とのコミュニケーションも図れています。今後は、現地確認の中で得た情報、内容で当社でも取り組みそうなこと提案していきながらよりいっそうな廃棄物削減に繋がっていきます。

経営理念	トップメッセージ 会社概要・沿革・編集方針	サステナビリティ ビジョン2030	快適な暮らしを 支える「素材」	特集	ISO26000の 中核課題	2023年 CSR行動計画	未来への 取り組み
組織統治	人権	労働慣行	公正な事業慣行・ 消費者課題	環境	コミュニティへの参画および コミュニティの発展		

廃棄物削減の取り組み

レゾナックグループは、全社を挙げ廃棄物発生量の抑制および、ゼロエミッション*の達成を目標に掲げ、外部委託業者の協力を得て3R (Reduce・Reuse・Recycle) への取り組みを進めています。

また当社では、担当者が毎年委託先へ出向き、中間処

理・最終処分状況を査察し、廃棄物が適正に処理・処分されていることを確認しています。

*ゼロエミッションとは：排出される廃棄物をいかに処理するかではなく、それを再利用しあらゆる廃棄物量をゼロにすることを社会全体で目指すグローバルな取り組み。資源とエネルギーをできる限り有効に使用し、環境への排出をゼロに近づけ資源循環型の社会を目指すもので、国連大学が1994年に提唱した。レゾナックグループでは「最終理立処分量が廃棄物発生量の0.5%以下」と定義している。

エコ事業所認定

2010年に富山県で、県内廃棄物の減量化、リサイクル推進を目的に「富山県リサイクル認定制度」が制定され、廃棄物を利用したリサイクル製品や廃棄物の減量化・リサイクルなどに積極的に取り組んでいる事業所の認定が開始されました。

認定の範囲は、リサイクル製品、資源回収拠点のエコ

ステーション、エコ事業所の3分野にわたり、富山工場はゼロエミッションの達成やアルミ缶・エコキャップの回収・寄付およびLED照明の採用等の取り組みが評価され、2013年に県内6社目のエコ事業所に認定されました。認定された事業所は、県情報誌やHPに掲載され、広く内外へその取り組みが紹介されています。

リサイクル実例

異なった材質が一体化した複合製品や、新素材・リサイクル品を多用した廃棄物は分別やリサイクルが難しく、またリサイクル業者を取り巻く環境も今や国内ばかりでなく世界規模で厳しくなり、排出者に求められる責任も年を追うごとに増えています。工場から排出される廃棄物は、場内での分別徹底を経て外部業者の技術協力により、そのほとんどがリサイクル品として広く利用されています。

ECO-RC砕石

自動車や大型のトラックが通行しても十分に支えられる強度を保つために、アスファルト下のしっかりとした層を作るための路盤材として利用されています。



再生プラ

金属片や異なる材質を含む成形品から異物を取り除き、フィルム状の軟質プラ・外装材や容器などに使われている硬質プラ・その他に分類。その後粉砕され、再生プラスチック原料に生まれ変わります。



再生塩ビ

場内設備から外された塩ビ配管には機器類や金属ボルト、芯材を含んだフランジが取り入れられているため、これらを取り除いた後に細断され再生塩ビ原料に生まれ変わります。成形されたものは再度塩ビ配管として利用されます。



環境

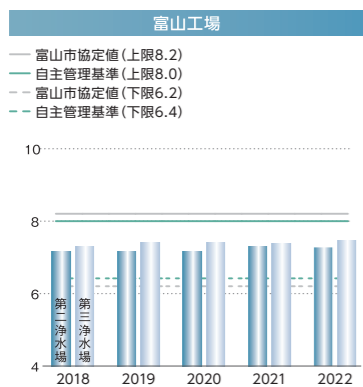
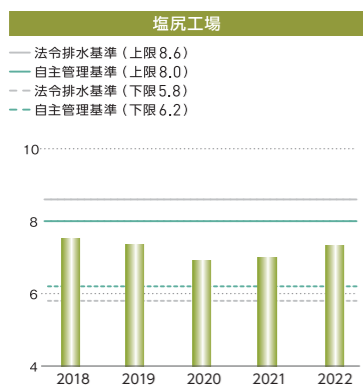


経営理念	トップメッセージ 会社概要・沿革・編集方針	サステナビリティ ビジョン2030	快適な暮らしを 支える「素材」	特集	ISO26000の 中核課題	2023年 CSR行動計画	未来への 取り組み
組織統治	人権	労働慣行	公正な事業慣行・ 消費者課題	環境	コミュニティへの参画および コミュニティの発展		

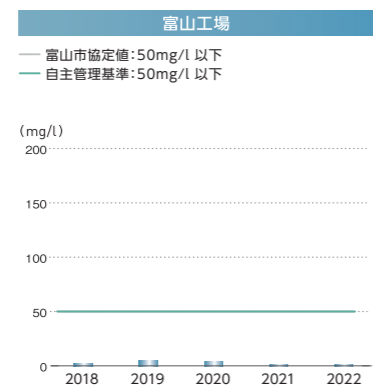
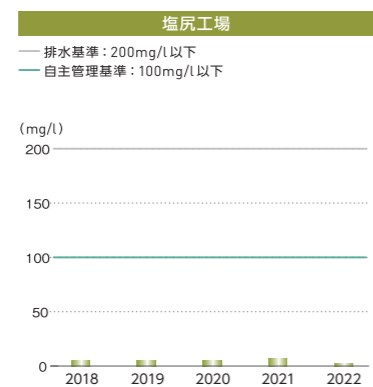
環境データ

水質データ 水質汚濁防止法による排出基準や地域との協定に基づく規制値を遵守しています。各工場では、地域との協定に基づく規制値より厳しい自主管理基準を設けています。環境維持のために、pH・SS・BOD・CODの常時監視を行い、排水監視の強化に努めています。(製品や立地により管理する項目が異なります。)

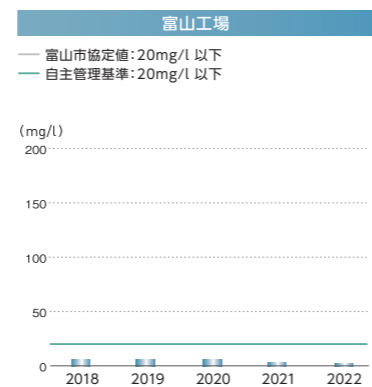
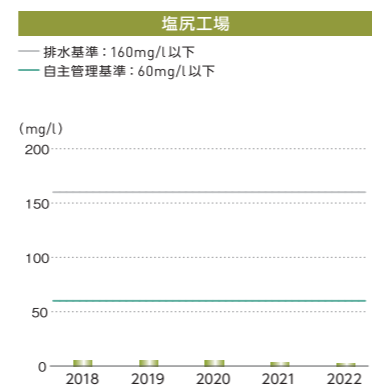
pH 水素イオン濃度指数
物質の酸性・アルカリ性の度合いを示す物理量pH1~14の範囲で示される。pH7を中性とし、より小さい値は酸性、大きければアルカリ性を示す。



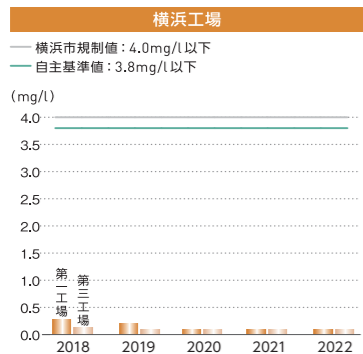
SS 水中に浮遊している物質質量
水中に懸濁している直径2mm以下の不溶性物質のこと。



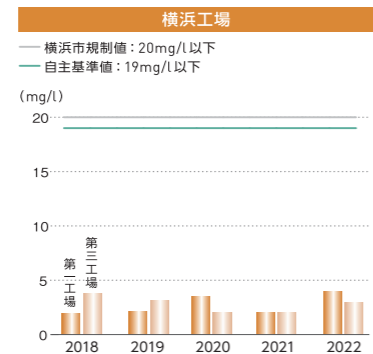
BOD 生物化学的酸素要求量
有機物指標が微生物によって分解される際に消費される酸素量。数値が大きければ水中の有機物が多く汚染が著しい。



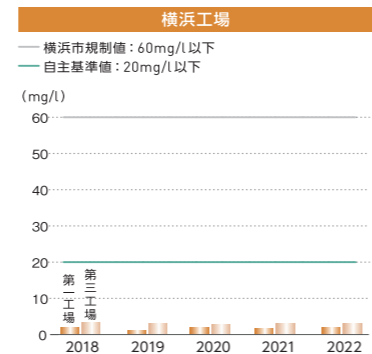
T-P 全リン
リン化合物は窒素化合物と同様に、動植物の成長に欠かせない元素であるが、水中の濃度が高くなると水域の富栄養化を招くことになる。



T-N 全窒素
窒素は水域の富栄養化の原因の一つであることから、栄養化のおそれのある湖沼、海域について環境基準(全窒素)、排水基準(窒素含有率)が設定されている。



COD 化学的酸素要求量
水中の有機物を酸化剤で分解する際に消費される酸化剤の量を酸素量に換算したもので、海水や湖沼の水質の有機物による汚濁状況を測る代表的な指標。

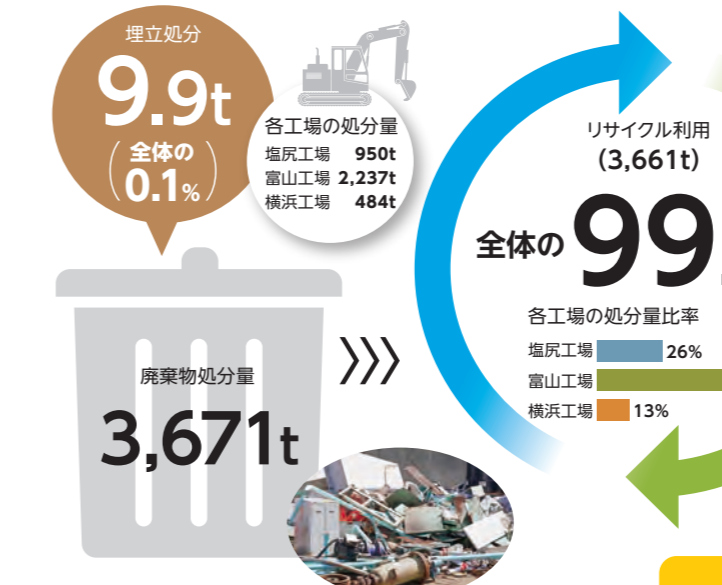
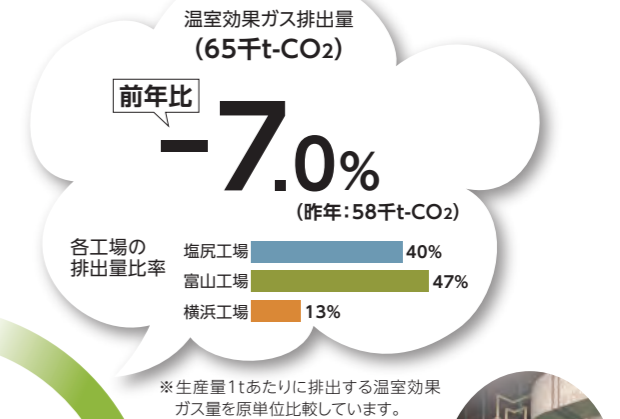


環境負荷低減の取り組み

生産活動によって生じる環境影響負荷を最小限に抑えるための取り組みを行っています。生産に不可欠な原燃料消費とこれによって排出される温室効果ガス・廃棄物埋め立て率に着目し活動を進めています。生産量に連動して変化する温室効果ガスやエネルギー使用量は原単位の削減、廃棄物は埋立率0.5%以下を目標に掲げています。

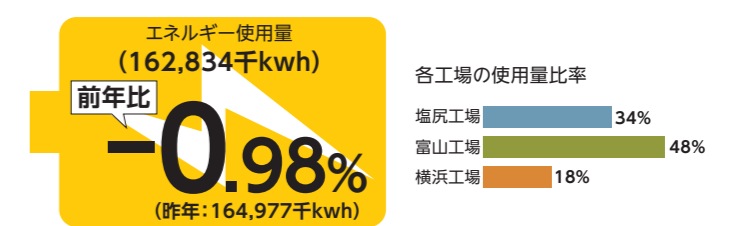
温室効果ガス (GHG)

環境方針の項目に省エネルギーを重要課題として位置づけ、生産工程の見直し、運転最適化などによる省エネルギーを推進しています。温室効果ガスは燃料使用量と、他社から供給された電気・熱の使用量から算出された排出量に排出係数を掛けて算出されます。



廃棄物処分量

各工場では廃棄物の発生量を抑えたと共に、発生した資源のリサイクル利用を推進しています。また、資源ごみと一般ごみの分別を徹底し廃棄物量の削減に取り組んでいます。



発電設備の紹介

工場を稼働させていくうえで電力は重要ですが、限りあるエネルギーを有効活用するため、再生可能エネルギーの利用にいち早く着目し活用を進めています。

【塩尻工場】

信濃川水系上流の梓川の水力を利用し、戦後1950年(昭和25年)に赤松発電所の運用を開始。自社工場の電力供給だけでなく、地域の水利事業においても広く利用されています。年間発電量は一般家庭5,460世帯の年間使用量に相当します。また2013年からは、工場敷地内に東京ドームの半分ほどの面積のメガソーラー発電設備を誘致し、年間180,000kWhの発電量を得ると共に、年間844tのCO₂の削減にも大きく貢献しています。

塩尻工場 赤松発電所

【富山工場】

多くの電力を必要とする電解炉を用いた製造を主体としていた富山工場は、1954年(昭和29年)に電力会社を主体に民間企業11社が共同出資した発電所を神通川上流の岐阜県高山市の見座・葛山の2ヶ所に建設し運用を開始しました(現在は4社の出資)。年間300,000MWhを発電し、出資会社における消費電力を賅うだけでなく、地域の発展にも貢献しています。

富山工場 見座発電所

コミュニティへの参画および コミュニティの発展

共創型化学会社として立地する国・地域社会に対し適切に情報を開示し、コミュニケーションを進め、相互理解を深めます。

- 地域社会の一員として、率直なコミュニケーションを図ります。
- 文化・宗教・歴史・慣習など、地域の特性を理解、尊重します。
- 地域社会に的確に情報を提供し、ご理解いただくよう努めます。
- 周辺地域の安全や環境に影響を与える可能性がある事態が発生した場合は、速やかに適切なルートで情報を発信します。
- ボランティア、文化活動、レクリエーションなど、様々な活動に地域社会の一員として参加します。



アルミ缶リサイクル活動

当社では2001年より全従業員がアルミ缶リサイクル活動に参加しています。

工場内で購入したアルミ缶だけではなく、各家庭から出た使用済みアルミ缶の一部を工場に持ち込んで回収しています。回収したアルミ缶の収益金の一部は、地域の小中学校や社会福祉事業団へ寄付され、社会貢献活動として定着しています。

2022年寄付実績

- 塩尻工場 ●塩尻市桔梗小学校へティーボールセットを寄付(58,000円相当)
- 富山工場 ●萩浦小学校への寄付(62,500円)
- 横浜工場 ●公益財団法人神奈川新聞厚生文化事業団への寄付(28,500円)



富山工場 収益金寄付の様子

ステークホルダーの声



富山工場 総務グループ
榎 祐典

地域の自然を護る取り組み

地元で生まれた私は、小さいころから慣れ親しんできた海が年々汚れていくことが気がかりでした。企業の繁栄と地域の活性化は切り離すことが出来ませんが、高齢化と地元離れが進む地方での街づくりや景観の維持には、マンパワーやリソースに大きな課題があると日々考え、企業としてどのような形でこの解消に向けた協力が出来るのか模索しています。

富山工場から直線距離で2kmほど離れたところに岩瀬浜海水浴場があります。日頃は近所のみなさんの憩いの場として親しまれていますが、週末や行楽シーズンになれば、春はホテルイカ獲り、夏や秋には海水浴やキャンプ地として、県外からの観光客で賑わいます。富山工場では毎年県下一斉に実施される海岸清掃活動「みんなできれいにせんまいけ大作戦」に協賛し、2012年からこの岩瀬浜海水浴場の清掃活動に参加しています。毎年海開きを間近に控えた7月の第一日曜早朝5時に現地集合し準備に取り掛かり、首にはタオル手には軍手やポリ袋・トンブを持った参加者が一斉に海岸線に繰り出し清掃を開始します。

取り組み当初は参加者もまばらでしたが、最近では若手を中心に環境保全意識の高まりから20名を超える参加があります。

1時間程の活動を終えて、朝日が昇り始めた砂浜で回収したごみの山を前に記念撮影をするのが恒例なのですが、その時に、きれいになった浜辺を近所のみなさんが嬉しそうに歩いているのを見ると、地域との深いつながりを実感することが出来ます。

経営理念	トップメッセージ 会社概要・沿革・編集方針	サステナビリティ ビジョン2030	快適な暮らしを 支える「素材」	特集	ISO26000の 中核課題	2023年 CSR行動計画	未来への 取り組み
組織統治	人権	労働慣行	公正な事業慣行・ 消費者課題	環境	コミュニティへの参画および コミュニティの発展		

SDGs達成への取り組み

2019年にSDGsへの本格的な取り組みを開始しました。オンライン教育やSDGsロゴマーク入りの社員証、看板を設置し従業員一人ひとりへの意識付けや活動への参画を促し、レゾナックグループの一員として、事業・製品を通じて「化学の力で社会を変える」取り組みを推進して行きます。

- 塩尻工場 ●長野県SDGs推進企業に登録
- 富山工場 ●SDGs未来都市とやまに登録
- 横浜工場 ●横浜市SDGs認証制度「Y-SDGs」に登録

美化活動

工場周辺の道路や緑地帯の清掃活動を行っています。また、「工場ショールーム化」のキャッチフレーズのもと、自然環境との調和、地域の景観に溶け込んだ美しい工場を目指し、場内の植樹や緑化管理・荒地整備など、地域の方に親んでもらえる工場となるための取り組みを推進しています。



富山工場 海岸清掃

レクリエーション

同じ工場でも働いていても、職場が離れていたり勤務時間帯が異なると顔と名前は知っていても話したことも無いといったように、従業員同士でも中々お互いを知る機会がありません。円滑なコミュニケーションとアイデンティティの創出に加え、従業員の家族にも広く会社の取り組みを理解していただくこと、各工場で世代や職制の垣根を超えて楽しめる様々なレクリエーションを企画しています。社内の厚生施設を利用したスポーツレクや、季節ごとのハイキングツアーなど皆で楽しみながら健康増進にも一翼を担う活動を進めています。

プラスチックリサイクル活動

ペットボトルキャップの回収活動からスタートした取り組みは、梱包材や資機材、事務用品、樹脂パレット、塩ビ配管等事業活動で生じたあらゆるプラスチック製品の分別回収にまで広がり、構内で働くすべての作業者の分別リサイクル意識が高まりました。

場内で回収したプラスチックは更に素材・形状別に7種類に選別し専門業者に買い取っていただき、その売却益は買取業者を経由して日本赤十字に全額寄付され人道支援活動に役立てられています。

プラスチックごみの有効活用は、廃棄焼却時に発生するCO₂の削減にも役立っています。

工場見学会

当社では、ステークホルダーの皆さまに製品、安全・環境への取り組みを知ってもらうために、工場見学会を随時開催しています。お客様、地域の方々、近隣の学生、学校関係者、行政関係者等多くの方に来場していただいています。

2022年実績 塩尻工場 220名



塩尻工場 工場見学会

ストレスチェック制度

2015年12月1日から、労働安全衛生法の一部を改正する法律により、ストレスチェック制度が施行されました。

- 1 働く人がストレスによって心の健康を損ねることを未然に防止する
- 2 働く人が自分自身のストレスに気づいて対処する
- 3 働きやすい職場の実現

以上、3項目が大きな目的です。

当社では、定期健康診断と同時に簡単な設問へ回答する方式のストレスチェックを実施しています。今後も働く人の心の健康を守る取り組みを実施していきます。

2023年 CSR行動計画

◎:当初計画より大きな効果あり ○:有効な効果が得られた/継続的に実施
△:計画していた結果を得られなかった/見直しが必要

	2022年計画	2022年実績	評価	2023年計画
人権・企業倫理・コンプライアンス	人権啓発活動を着実に推進する	e-learningにて基礎研修実施	○	人権啓発運動の継続
	コンプライアンスと企業倫理を定着させる	改定私たちの行動規範と実践の手引きの読み合わせ 集合学習の教材を用いてグループ内でワークショップ	○	改定私たちの行動規範を活用してグループワークの継続・充実
RC体制	リスクの棚卸を継続する	リスク管理表・評価表の見直し実施	○	リスク管理の継続
	クライシス対応の強化	防災訓練、事象別対応訓練、BCP対応訓練の実施	○	緊急時対応強化
	BCP(事業継続計画)策定	設備の耐震化工事の実施	○	BCPからBCMへ移行準備
	マネジメントシステム(RC/QMS/EMS/OHSAS)の効率的な運用	ISO審査指摘事項反映	○	更新審査に向けた適切な対応
	各種教育体制の充実	階層別教育を実施	△	教育内容及び体制の充実
	RC監査体制の充実・RC実績把握のスピードと信頼性向上	各課実績検討会での報告実施	○	スピードと信頼性の向上
労働慣行	多様性の推進に向けた取り組みを実施する	障がい者雇用の促進	○	多様性の推進継続
公正な事業慣行	CSR調達対象範囲を拡大する	CS調査の実施	○	CS調査の継続
環境・安全	化学物質に関する教育・管理体制の充実	化学物質教育実施、セミナー参加	○	化学物質に関する法令、安全教育の充実
	国内法規制におけるリスクアセスメントの実施	安全コンサルタントによるパトロール実施 化学物質リスクアセスメント教育実施	○	安衛法、化審法、計量法対象物質及び取扱作業におけるリスクアセスメントの実施
	海外法規制への適切な対応	海外向けSDS作成 化審法教育の受講	○	海外法規制への適切な対応
労働安全	安全に強い職場と人づくり	安全大会、自主保全活動の実施	○	安全SS活動推進
	安全管理レベルの向上	EMS、QMS、OHSAS審査受審、指摘事項への対応	○	外部視点を取り入れたレベル向上
設備安全	再発事故防止	災害の水平展開によるリスク抽出と対策実施	○	「創る安全」活動の推進
	自主保全	保安監督者の育成	○	設備安定化、保安監督者育成
労働衛生	衛生管理体制の強化(関係会社・協力企業含む)	各種教育、職場安全衛生会議の実施	○	管理体制の強化
	作業環境・作業方法の改善	熱中症対策の充実、作業別のパトロール実施による指摘と改善	○	作業環境・作業方法の改善
	快適な職場の形成	室内完全分煙化(就業時間内禁煙)	○	転倒・つまずき災害撲滅
健康管理	昭和電工グループいきいき健康づくりプランの推進	ウォーキング大会、座禅会実施	◎	レゾナックグループいきいき健康づくりプランとして継続
	健康管理の強化	健康診断受診率100% ストレスチェック制度実施	◎	健康管理の強化、ストレスチェックの適切な実施と活用 健康経営を目指した活動
産業廃棄物の減量化、再資源化の促進	産業廃棄物の減量化	プラパレ、木パレの有料引取化 埋立廃棄物をリサイクルへの転換実施 工程内のモレコボレ防止対策による廃棄物削減	◎	ゼロエミッション継続
	再資源化の促進	アルミ缶、廃プラリサイクル活動 分別の徹底	○	再資源化の具体化 プラリサイクルの推進
水資源リスク対応	水資源リスク低減	地下水の水質調査実施	○	水資源の定期監視

技術の進歩の結果、人々のくらしは物質的に豊かになった一方で
その代償として地球環境は危機的状況にあります。

この矛盾を解消することがこれからの社会にとって最重要課題となる中で、
あらゆる産業の起点である化学こそが、それを実現できるのではないのでしょうか。

その一方で、物事を根源から変える力を持つ化学は
光をもたらすこともあれば、影を落とすこともあります。

私たちがめざすのは、何世代にもわたって地球環境と人々の幸福の両立に貢献する化学。
そのために、時代が求める技術と機能を先んじて描き、創り、化学の力を正しく活かしていく。

私たちの基盤は、川中から川下まで幅広く自在な最先端の機能材料テクノロジー。
その上で、社会課題とその原因を鋭く可視化し、解決に向けてイニシアチブを発揮していく。
そのためには、化学業界に閉じた個社の事業活動にとどまっては足りないと考えています。

化学企業としてグローバルにおける一流の実力を備え、
機敏かつ柔軟な行動と意思決定をもって、産業のキープレイヤーから生活者に至るまで
志を共にする仲間とよりよい社会を共創していく。
これが、私たちがめざす“共創型化学会社”の姿です。

化学の力で社会を変える

RESONAC
株式会社レゾナック・セラミックス